

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400713		
法人名	社会福祉法人 正寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり荘 福崎の家		
所在地	兵庫県神崎郡福崎町西田原1693-1		
自己評価作成日	平成22年9月7日	評価結果市町村受理日	平成22年11月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873400713&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り、一歩引いた介護を行っています。
常に声かけを優先し、介助をするのはできるだけ控えるように心がけています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の穏やかな笑顔と、明るい職員が印象的なグループホームである。幹線道路から少し入った所にある、4階建ての建物の2階部分で、周りは田畑に囲まれ静かな環境だ。1階のデイサービスは「せせらぎの湯」から運んでの温泉が自慢で、ホームの入居者も週1回、大浴場で温泉浴を楽しんでいる。家庭的な雰囲気大切にしており、できることをできるだけ自分でしてもらい支援によって、花を生けたり、食器を運ぶことなどが習慣づけられている。同法人に特別養護老人ホームもあり、合同行事で交流を楽しむと共に、その方の状態に最も適したサービスを提供できるよう、連携を図っている。今後は地域の一員としての役割を担い、より地域密着型サービスとして貢献されることを期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念ではないが「地域との交流」や「利用者個人の生活リズムを大切にされた支援」を年間目標として実践につなげています。	法人の理念に基づいて三つの運営方針を作り、全体の職員会議でも話し合って確認し、毎日のケアの中での実践に努めている。	地域密着型サービスの意義について管理者・職員で改めて話し合い、事業所独自の理念を作りあげて、全員で共有してほしい。また、その理念を入口の見やすい所に掲示してはどうか。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年1回、事業所で祭りを行っており地域の方も参加、祭りを盛り上げていただいています。 ・近くの小学校の運動会への参加。	地域にある熊野神社での秋祭りや小学校の運動会に参加したり、事業所1階にあるデイサービス事業所と年1回合同で開催する「ひまわりの広場祭り」で利用者と職員による共同作品の展示を家族及び地域の方を招いて見ていただいたりして交流を図っている。日々の外出時に挨拶を交わしたりしている。	事業所も地域住民の一員である。地域のクリーンアップ活動(草刈・清掃)、自治会に加入するなどして地域住民の一員としての役割を果たされることを期待する。更には認知症ケアの専門家としての地域への情報発信を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や町担当者にグループホームについて理解してもらった。	平成21年度は11月と2月の2回、家族、評議員、民生委員、知見者、地域包括支援センター職員及び法人の施設長及び事務長、事業所管理者を構成メンバーとして会議を開催した。内容は運営状況及び情報の公表制度の調査についての報告等と意見交換が行われた。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、おおむね2ヶ月に1回以上、定期的で開催することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型事業所の連絡会で町担当者と連携。	町が年2回開催する地域密着型サービス事業所連絡会(グループホーム3社と認知症対応型通所介護事業所の計4社)に積極的に参加したり、町担当部署に行き、事業所運営状況を話したり事業所季刊誌「ひまわり通信」を持参したりして協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間以外は、玄関の鍵をあけて対応しています。 ・やむを得ず行う場合、家族と相談の上行い、その都度報告を行います。 ・職員は会議等で理解しています。	管理者は、全職員対象に身体拘束をしないケアについて研修を実施し、全職員に周知徹底している。平成21年度は5月と8月に職員に対して身体拘束をしない取り組みに関してアンケートを実施し、結果について検討し、日常ケアに反映している。また、玄関の施錠については、昼間は一切行っていない。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時やトイレ介助時等で必ず全身チェックし早期発見に努めています。	管理者は、虐待の防止についても「身体拘束をしないケアの実践」と併せて全職員に対して研修を実施し、日々のケアの中でその防止の徹底に努めている。トイレ誘導時や入浴時には利用者に対しさりげない声掛けを行うと共に早期発見にも注意を払っている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		管理者及び職員は、これまでに法人内の他事業所で事例があったことを認識しているが、当事業所内で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つまでには至っていない。	管理者及び職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んで知識と理解を深め、対応が必要な利用者がある場合は、説明し支援に結び付けてほしい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明を行い後日わからないことや疑問に思うことがあれば、いつでも言ってくださいと伝えていきます。	事業所利用に際しては、利用者及び家族に重要事項説明書及び契約書の内容を丁寧に説明し、一旦自宅に持ち帰って、理解・納得していただいた上で改めて契約締結している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日々の会話からくみとったり、月1回の寄合で意見を出していただいています。	事業所は、日々のケアの中はもとより、毎月月初に1回、おやつ時に定期的に関く「寄り合い」で利用者の意見や希望を聴く機会を持ち、食べたいものや行きたいところなどの希望をお聴きして反映するようにしている。また、家族の訪問時とか年2回開く法人合同の家族会の折に家族の意見を得るようにしている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見や提案を聞き、反映させている。	管理者は、毎月1回開く職員会議だけでなく毎日のケアの中で職員から出た意見を事業運営に反映するように努めている。自己申告制度が年2回実施され、職員は自己申告表を提出し個人面談の機会もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回評価を行っている。資格取得・研修参加の奨励。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者との会議に参加。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取り調査を行い、困っていること・希望すること・入所に至るまでの経過・生活歴などを聞いています。特に初期は会話を多く持ち本音を聞けるよう努力しています。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に不安や困っていることを聞き、入所後の利用者の状態報告を行い、意見を聞いて対応に役立てています。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所してしばらくは状態の不安定な方が多いため、面会の回数を増やしてほしいと家族の方をお願いしています。 ・必要に応じ関係機関と相談し対応しています。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理方法を教えていただいたり、行事ごとについて教えていただいたりしています。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と日頃から面会に来られた際利用者のことについて話したりコミュニケーションをとっています。 ・施設で対応が難しい場合など家族の方をお願いしたり又その逆もあります。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで自宅でされていたように、馴染みの人が来られたり出かけられたりしていただいています。	事業所を利用しても、今までの在宅生活の延長線であるように個別に知人に会いに行ったり、家族等が訪問したり、これまでのつながりを継続できる支援に努めている。また、近隣のレストランに行ったり、季節の折々にバラ園、砥峰高原、フラワーセンターに出かけたりして支援している。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう職員は心がけています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中と変わらず、挨拶したり会話をしています。知っていることを伝えたりと働きかけをしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・月1回利用者の意見や希望を聞く「寄り合」を行っており、その際希望などを聞いています。 ・困難な場合検討したり家族に相談したりしています。	利用者一人ひとりの身体状況・生活状況を踏まえながら、月1回開く「寄り合い」の時に意見・希望を聴いたり、日々の暮らしの中で利用者一人ひとりに寄り添い、思いや意向を把握するように努めている。	入居後これまでに蓄積した利用者一人ひとりの生活歴等を整理して、全体像が見やすいようにまとめ、全職員が利用者のアセスメントを共有できる仕組みづくりを望む。
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族の方への聞き取りを元に話をしています。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や過ごし方をカードックスに記録し引き継ぎ時に話し合い、職員全員が情報を共有しています。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月～1年間隔で介護計画書を作成。家族からの意向・意見・希望等を聞き、医療面では主治医と相談し計画をたてます。	介護計画は手順に沿って、アセスメントで把握された課題を分析評価し、利用者・家族の意向を聞き取り、サービスの必要性と目標を定め、関係者が話し合った上で作成している。毎月1回、モニタリングを実施している。計画の見直しは、6ヶ月毎に実施しているが、変化があれば都度見直しを実施している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を随時記録し、ケアプランに反省させています。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・空室があれば入所までになじめるようショートステイを利用してもらっています。 ・美容室の方に毎月1回来て頂いています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広場祭りやクリスマス会では地域のボランティアの方に協力していただいています。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、かかりつけ医を決めており利用前からの医師をかかりつけ医としている方もおられます。	本人や家族等が希望するかかりつけ医となっている。入居前から利用しているかかりつけ医への受診や通院は基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が通院支援するようにしている。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に相談し健康管理や医療活用の支援をしています。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者や家族と情報交換や相談をしています。 ・医療機関と連携をとっています。	入院に際しては、家族等と相談しながら入院目的を早く達成できるよう医療機関に利用者情報のサマリー（概要）を速やかに提供するなど、医療関係者とも密に連携を取っている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「終末期看取り等についての事前確認書」で利用者・家族の希望、意向を確認しています。状態の変化に応じて医師や家族と相談して話し合ったことは引き継ぎ簿や個人記録に記入しています。	事業所は看取りについての方針を統一して書式化し、職員全員で共有している。入居に際して利用契約を結ぶ時に重度化や終末期における事業所に対応しうる支援方法について説明し、「グループホーム入所時の確認書」で家族等の意思を確認し、方針の共有を図っている。開設以来、事業所内で看取った事例が1件ある。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき勉強会で訓練しています。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練、昼・夜想定避難訓練、地震避難訓練を行っています。地域の人々への協力を得られるような働きかけは行っていません。	消防署指導による避難訓練を年1回、事業所独自の災害時における昼夜想定避難訓練を年2回、1階のデイサービス事業所との合同避難訓練を年1回実施している。災害時用として米、スポーツドリンク等の備蓄もある。	日ごろから地域との連携を図ると共に運営推進会議のメンバーとして地域住民の代表である区長にも入っていただき、事業所の災害時対策に関する理解を求め、地域住民の協力を呼び掛けていくことを期待したい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的な声かけはせず利用者の誇りを傷つけないよう努めています。	排泄や入浴の折、本人の気持ちを大切に考えてさりげない声掛けとケアを心がけている。個人情報保護の観点から、リビングの事務用カウンター内に関係者以外が立ち入ることが無いように開閉扉を付けて改善している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者主体を心掛け支援、その方にあった働きかけをしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は時間を長くとり対応してみたり入浴時間も長く時間をとっています。その方の生活習慣にあった対応をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れ、食べこぼしなどは気づいたときにそっと声かけ支援しています。好みを把握するために一緒に買い物に行ったりしています。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人内特養の栄養士が計画。月1回の寄合で出た希望メニューをとり入れたり、その日その時に食べたいものに変更しています。週2、3回買出しに行き一緒に準備をしています。	献立は、同一法人の特別養護老人ホームの管理栄養士が作っている。食材は、近隣から買い出し、調理、盛り付け、配膳、後片付け等の一連の作業を利用者と職員と一緒にやっている。重度者を除く殆どの利用者は、配膳と後片付けを自立して行っている。また、利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内特養の栄養士が計画。水分は常に摂れるようホール内にポットを置き自由に飲めるようになっています。10時・15時・食事時・入浴後・外出後は必ず湯のみ1杯飲んでいただいています。体重測定は月初めに行っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけをし見守りや一部介助を行っています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った時間を決めてトイレ誘導。できるだけ外せるよう努めています。	一人ひとりの排泄パターンと習慣を把握し、羞恥心に配慮したトイレ誘導を行い支援している。また、紙パンツとパッドを使用して自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を出来るだけ使用せず、食べ物や水分量に気をつけ対応しています。例えば、冷たい牛乳や寒天など		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・希望に応じていつでも入浴できよう配慮 ・毎日入浴できるようにしてあります ・毎週土曜日は温泉の湯	利用者の希望に合わせていつでも入浴できるようになっており、希望があれば毎日の入浴も可能である。毎週土曜日には、笠形の「せせらぎの湯」から運んでくる温泉湯に入浴できるため、利用者は楽しみにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中、出来るだけ起きていただけるよう工夫 ・冬場は就寝前に足浴を行うこともあります。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服薬。処方箋を見て副作用の確認を行う。薬が変更になった場合は引きつぎをして状態変化がないか気をつける。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回利用者の要望・意見を話し合える場をもち、実践している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週2、3回買出しに行きます。	外気欲のために戸外に出たり、食材の買出しのために週2～3回、近隣商店に出かけたりしている。また、地域の熊野神社に初詣したり、法人施設の桜見物や砥峰高原のススキ見物、フラワーセンターに行く等の外出支援を行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は自分で持たれています。そうでない方は施設側で気づかっています。施設内で売店をしたりとお金を使うようにしています。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望ある度、対応しています。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花を職員が持ってきて利用者に生けてもらい季節感を味わってもらっています。 ・季節感を味わってもらうためエアコンを入れるタイミングを工夫しています。	1階から2階事業所に至る階段壁には、利用者と職員の共同作品であるケルト布を使用した作品、沢山のペットボトルの蓋を使用し、ケルト布で覆ったひまわりの花をはじめとした作品郡が来客を迎えてくれる。リビングは畳の間もあり全体スペースが広く開放的であり、利用者が花瓶に活けた季節の花があちこちの棚に飾られ、壁にはひまわりの絵や毛糸を使った共同作品が貼られ、利用者の表情は穏やかで居心地よい。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外に北側の窓際にテーブルを設置したり風呂場前に椅子を置いたり職員が見えない場所の確保をしています。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に今まで使っていたものをできるだけ持ってきていただくよう伝えていきます。居室内の物の配置は利用者にまかせています。	事業所は利用者が使い慣れた馴染みの物を持ち込むことを勧めており、テレビ、犬の縫ぐるみ、扇風機を持ち込んだり、写真、絵手紙、花を飾られている利用者もおられた。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには手すりをつけたり居室内で干せる物干しを使用したりできる限り自分でできるよう配慮しています。		